

豪雪地域に植栽した 19 年生ブナの成長から見た事前調査の重要性

指導部 市原 満 小山 泰弘

ブナを伐採後にチシマザサが占有した保安林で、带状筋刈り後にブナを植栽した。今回 19 年生のブナを調査した結果、筋刈りした施業区よりもササを残した無処理区でブナの樹高が高かった。加えてブナを含む高木性広葉樹は、施業区及び無処理区のどちらもブナの植栽本数を上回っており、当地では筋刈りとブナの植栽は不要だった可能性が指摘できた。

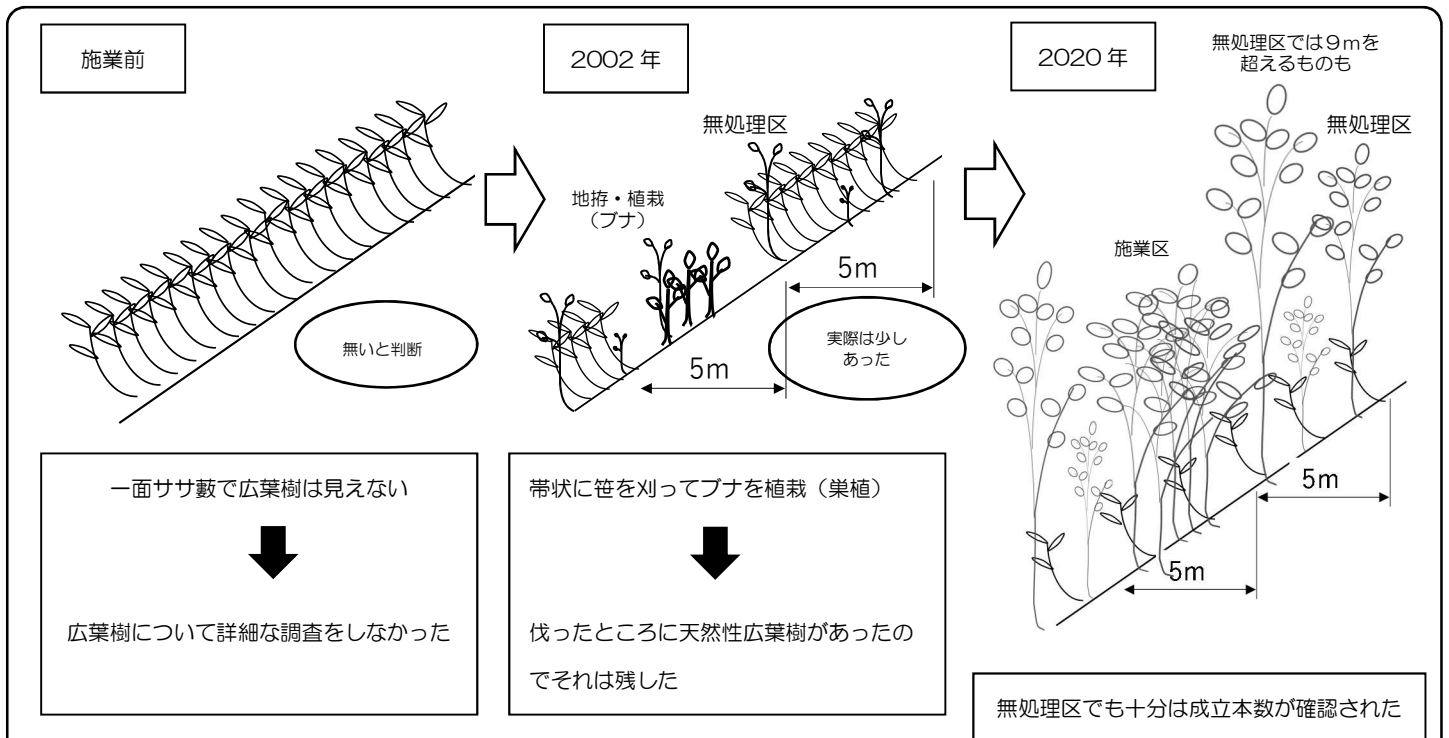


写真-1 2003 年 (ブナ植栽翌年) の状況

筋刈りした施業区よりもササを残した無処理区でブナの樹高が高かった。加えてブナを含む高木性広葉樹は、施業区及び無処理区のどちらもブナの植栽本数を上回っており、当地では筋刈りとブナの植栽は不要だった可能性が指摘できた。

今回、筋刈り後にブナを植栽した背景は、ササ藪でのブナの更新が困難であるという既存概念から、ササ藪内の広葉樹を見落としたりと考えられる。低コスト造林が叫ばれる中では、天然更新出来るか、画一的な視点を持たず、より丁寧な調査が必要である。

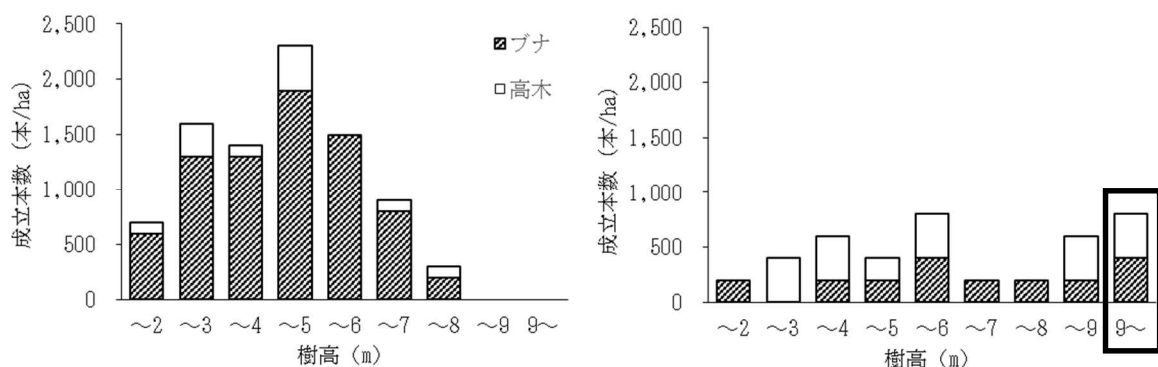


図-1 調査区の樹高階分布 (左: 施業区・右: 無処理区)